



第12号

木曽川町連区

HP



地域づくり協議会だより

【発行日】令和7年10月1日 【発行者】木曽川町連区地域づくり協議会

☎493-0006 木曽川町内割田一の通り27(木曽川庁舎内)

【メールアドレス】k-chiiki@orihime.ne.jp ☎84-0005

【ホームページ】https://138kisogawa.org

総数	男	女	世帯数
33,700	16,518	17,182	14,553

木曽川町連区の人口(2025.8.1現在)

交通協議会設立総会

第3次一宮市公共交通計画策定(令和6年3月策定)にあたり、木曽川町連区の公共交通について考える第1回住民懇談会が令和5年1月に開催されました。その後2回の懇談会を開催し、木曽川町公共交通の在り方や「i-バス木曽川・北方コース」のルート見直しなどが検討されました。

令和6年7月からは、市公共交通計画策定に関わられた名古屋大学大学院環境学研究科とより具体的な公共交通の課題解決について意見交換会を開催しました。中でも「i-バス木曽川・北方コース」は、運賃収入や年間利用者、収支率がi-バス全6コースの中で最も低く、見直しは喫緊の課題でありました。

その後計4回の意見交換会を経て、i-バス利用客の利便性をいかに向上させ、利用しやすい木曽川地区のニーズに合った運行計画などを市へ提案できるかを考えたとき、地域交通に特化した組織を立ち上げることが必要でした。

これまで約2年間にわたり住民懇談会や意見交換会に参加していただいた方を中心に町会長協議会(各区長)、地域づくり協議会、地域代表(門間区・玉ノ井区・里小牧区)、民生児童委員協議会、児童育成協議会、老人クラブ連合会、学識経験者から委員を選出し、令和7年6月15日、会長に五藤政尋さん(前木曽川商工会会長)を迎え、木曽川町連区交通協議会を設立しました。

木曽川町連区交通協議会では、次の事業を柱として活動し、皆様により親しまれる公共交通を目指します。何卒よろしくお願いいたします。

- ①i-バス利用率向上への検討会議の開催
- ②i-バス利用促進の啓発活動(広報)
- ③木曽川町連区内の公共交通の最適化の検討
- ④協賛企業からの寄付金要請活動



Junior Talk in Kisogawa 2025

開催
レポート
(活気部会)

8月2日(土)、木曽川庁舎研修室を会場に“Junior Talk in Kisogawa 2025”を開催しました。

今年度5回目となる今回は、町内の小学生4名と中学生5名が参加し、2グループに分かれて熱心な討議を繰り広げました。

今回も、ファシリテータとして大学生3名が参加し、小中学生の意見促進役として活躍してくれました。木曽川町を「どんなまちにしたいのか」、それには「どんなことができるのか」、それを実現するために「企画を考えてみよう」について、活発な意見交換が行われました。議論が始まると、自分の考えを積極的に発言するだけでなく、他の発言に耳を傾けて賛同したり、関連する意見を付け加えたり……、参加者全員が主体的・対話的に深い話し合いを進めました。



今回新たな話題として上がったのは、「一豊まつりをどう盛り上げるか」と「空き家をどう活用するか」でした。一豊まつりを知らない人たちもいて、認知度を高め、参加者を増やしていくため、様々な意見が交わされました。この提言を商工会にも伝えていきたいと思います。また、空き屋を地域の交流や若い世代の学習の場にできないかなど、小中学生ならではのユニークな意見もありました。

今年度は、トークのまとめを今まで以上に木曽川町の皆さまに伝え、広めていきます。子どもたちが提言したい内容を模造紙に手作りで書き込み、それを今後開催される一豊まつりや町文化祭、商工まつりで掲示していく予定です。その折には、ぜひご覧いただくとありがたいです。



「あなたのいちおし」写真や地域の情報の投稿をお待ちしています。HPや地域づくり協議会だよりでご紹介させていただきます。地域づくり協議会の公式ラインを「お友達登録」して、トーク画面から投稿してください。

※宗教や政治、利害関係等に関する内容はNG。個人情報等へのご配慮もお願いします。

お友達登録
記念の粗品
プレゼント中

きそかわ

クイズ

国鉄(日本国有鉄道、現在のJR東海)の木曽川駅は次のいつの時代にできたかな?

①明治 ②大正 ③昭和 ④平成

答えは最後のページだよ!

友だち
募集中

認知症サポーター養成講座

令和7年7月12日(土)に、木曽川文化会館にてコムネックスみづほ様のご協力の下、講師に米澤様、認知症当事者の大塚様を招いて、今年度も認知症サポーター養成講座が開かれました。区長・町会長をはじめ、一般の方も含め103名の方にご参加いただきました。

はじめに、認知症の理解の前に“共生社会の実現を推進するための認知症基本法概要”についての説明をうけ、認知症の症状や対応方法の理解を深めました。参加された皆さんが我が身、自分の大切な人にも起こりうる事として捉え、講師の話に耳を傾ける姿がたくさん見られました。

次に、真剣な表情から笑顔いっぱいになった脳トレタイム。

唱歌「うみ」に合わせて歌いながら手を動かす、足を動かす…なんて難しいのでしょうか！“何かをしながら、何かをする”のも予防の1つだそうですよ。

我が家でも、シニア世代に片足を踏み込んでいる主人とやってみようと思います。上手くできなくても良い刺激になりそうです。

学生の上田さん、西村さんによる認知症の方への対応の寸劇は分かりやすく、自分だったらこんなふうに声をかけようかな？とイメージを膨らます事もできました。

そして、大塚様からご自身の経験談を聞かせていただきました。マイナスイメージになりがちな認知症ですが、大塚様は外に目を向け、ご自身ができる事をやり、日々の生活を楽しんでいるように感じられました。当事者がやりたいと思う事は、やってあげるのではなく、できるようにサポートや声かけをする。サポートを難しく考えないで「認知症でも楽しさも悲しさもわかるひとりの人」として接してほしい。障がいを持っている全ての人に「あなたは大切な人」と伝えてほしいということでした。

この講座で学んだ事を実際に行う場面と出会うかは分かりませんが、いつでも声をかけられるように、少しの勇気を持ち続けていこうと思います。そして、同じ気持ちを持つ方が増え、いつの日か認知症の方たちと共に支え合い、生活するのが当たり前の町になればいいなと思います。

受講者 I さん

認知症サポーター



盆踊りのつどい

会場 木曽川運動場

盆踊りのつどいを8月16日(土)・17日(日)の2日間開催致しました。日中は熱中症注意報が出るほどの猛暑が続く毎日ですが、当日の夕方には心地良い風が吹き始め、ののほ太鼓さんの力強い太鼓の音で盆踊りのつどいが始まりました。

公民館 魅力部副部長
堀 裕子

2日間でなんと3,300人を超える多くの方に参加いただきました。これは昨年を超える数です。

キッチンカーの焼きそばや、かき氷、たこ焼き、唐揚げ、ポテト、ラムネ、ベビーカステラ、クレープ、タピオカドリンク等、子どもから大人まで、たくさん笑顔にしました。子ども達は、きそがわ作業所や市内で活躍する青少年グループによる千本引きを楽しんだり、光るグッズ等をつけて嬉しそうに動き回ったりしていました。

夜が深まるにつれて熱を増し、木曽川太鼓さんの力強い太鼓の演奏、手拍子や掛け声でボルテージが上がり盆踊りの輪や会場に一体感が生まれていきました。

両日ともに夜空に恵まれ、木曽川盆踊りのつどいが盛大に催され、無事に終える事ができましたこと、心より感謝申し上げます。

来年度も皆さんのご協力をいただき、盛大なる盆踊りを開催し、多くの皆様楽しんでいただけることを心より願っています。



楽しんでいます 「ふれあいポッチャサロン」



私たちの「サロン」は、「ポッチャ」というスポーツを通して交流を楽しんでいます。
「ポッチャ」？ スポーツなの？ 聞きなれない言葉でしょうか。ポッチャはパラリンピックの正式種目であり、すべての垣根を越えて、誰でも楽しめる世界中で愛されているスポーツです。

★【簡単なルール紹介】 ジャックボールと呼ばれる白い目標球に赤と青チームが6球ずつボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりしてどれだけ近付けるかを競います。ジャックボールそのものを動かすこともできます。ボールは大きさ、重さが規定内であれば硬さや材質は問いません。そのためボールの形がかわり転がり方に変化がでるのも特徴です。

そもそもが障がいのある人のために考案されたスポーツです。ボールを投げることができなくても自分の意思を介助者に伝えることができれば、道具を使って参加できます。

激しい運動量が求められるわけではありません。また、戦略性が重要であるものの、ルール自体がシンプルという点が誰でもが楽しめるポイントになっています。最後の1球で勝敗が決まることがあり、何が起こるかわからないスリルと頭脳とチームワークを駆使する奥深いスポーツです。

私たちのサロンでは、さらに気楽に楽しむためにルールをアレンジして、コートを小さくしたり、スローイングボックスを広くしたりしています。

子どもさんや障がいのある方が素晴らしいパフォーマンスを成功された時は、純粋にすごいなと思います。是非一度ボールに触れて、投げてみてください。お待ちしております。

丹菊 佳代



場所:木曽川公民館 講堂
(木曽川庁舎 2階)

日時:毎月第3日曜日
10:00~11:30

対象:老若男女、障がいあるなし
など関係なく、どなたでも
参加いただけます。

会費:年会費200円

知りたい!「シン学校プロジェクト」の今

第3回役員会



黒田小学校が第1期の後期(2027年10月~2034年3月)対象校に選ばれたことは既にお知らせしました。

今後の学校建設スケジュールは3年後の令和9年度以降に構想策定のための、ワークショップ、住民説明会、施設視察等々が計画される予定です。

地域からの提案の概要	選定された理由
・老朽化した校舎の建て替え ・地域コミュニティ拠点としての学校 ・防災拠点としての学校	・校舎の半数(中舎・南舎・給食室)が築60年を経過しているため ・給食を単独調理室から中央方式に切り替えるため

※提案の内容については今後策定される基本計画において原案とするが、事業の内容として確定しているものではない。

近隣探訪〈中野の渡し〉



かつて、一宮市内の木曽川には、河田(こうだ)・大野・渡(わたり)・北方・宝江・里小牧・玉ノ井・奥町・起・駒塚・加賀野井・西中野の12か所に渡船がありました。近くに大きな橋が開通すると、渡船は廃止されました。木曽川最後となった西中野の渡船は通称「中野の渡し」と呼ばれています。

令和7年5月24日に新濃尾大橋が開通し、来年の3月には廃止されるそうです。
(終了日は未定)

廃止される前に一度乗船し、木曽川の広い川幅を体感して思い出づくりをしませんか。

○乗船料は無料、月・木運休(天候による運休あり)

○乗り場 一宮市西中野(名鉄バス「西中野」バス停すぐ)



きそがわ掲示板

商工まつり

日時／ 11月8日(土)・9日(日)
メイン会場／イオンモール木曽川
ノースコート及び東側駐車場
サブ会場／尾西信金ホール
キッチンカー、マルシェ、企業展示、
相談会、販売会、和太鼓、バンド、
ダンス等のステージ発表会
☎ (木曽川商工会) 87-3618

文化祭

日時／ 10月25日(土)
13:00～16:00
10月26日(日)
9:00～16:00
会場：木曽川公民館
素晴らしい、楽しい作品がいっぱいです。
呈茶券(400円)は当日販売します。
☎ (公民館) 84-0020

芸能祭

日時／ 11月2日(日)
9:30～16:00(9:00開場)
会場：尾西信金ホール
木曽川中学校吹奏楽部の演奏あり。
ちびっこから熟練者のステージで
盛り上がりますよ！
☎ (公民館) 84-0020

「声掛けお助け隊」

認知症徘徊者救済の模擬訓練

誰もが安心して暮らせるまちづくり
を目指して、お子様も一緒にチャ
レンジください。見学自由です。

日時／11月29日(土)
9:00～12:00
会場／木曽川東小学校体育館
対象／東小学校区にお住まいの皆さん
主催／思いやり部会

公民館 新 企画事業

「きそがわ謎解きウォークラリー」 (きそがわの歴史をめぐって)

日時／11月15日(土) 午前
★木曽川庁舎を出発して、チェック
ポイントの謎を解きながらの
ウォークラリーです。
参加賞有りの楽しい企画です。
詳細、参加申し込みは、回覧チラシ
や木曽川公民館受付でお尋ねを！
★参加申し込み
10月10日(金)～20日(月)
☎：(公民館) 84-0020

「きて」きいて おはなしフェスティバル



日時／12月13日(土)
9:30～12:00
会場／木曽川公民館 講堂
★読み聞かせイベントです。
★おはなし、工作、手芸、クイズ等

募集します！

★絵本のリサイクル市をします。お
家に読まれなくなった絵本があり
ましたら、木曽川庁舎1階総務窓口
課の回収ボックスまで、よろしくお
願いします。いたみ、落書き、お名
前の記入のない物でお願いします。
回収期間(10/1～11/30)

主催／女性部会

講座案内

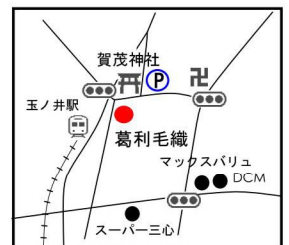
木曽川町再発見講座(活気部会)



近年、この地方の特産物である『BISHU毛織物』が注目されています。木曽川町連区地域づくり協議会では、BISHU毛織物について多くの方に知っていただこうと、下記のような講座を企画しました。

興味のある方、木曽川町についてもっと知りたい方はぜひこの機会をご活用ください。

1. 開催日時 令和7年11月21日(金) 愛知県民の日・学校ホリデー
13:30～15:30
2. 会場 葛利毛織工業(木曽川町玉ノ井宮前1)
3. 講座内容 工場見学・簡単な体験・端布のお土産
4. 参加申込 Web申し込み(右記QRコードから)
5. 募集定員 20名
6. 申込期限 令和7年11月7日(金)



※学校ホリデーの日。親子参加大歓迎！お子様にとって価値ある体験に！
※お車でお越しになる場合、近隣の賀茂神社駐車場に駐車できます。

きそがわクイズ

答え

① 明治

江戸時代が終わって間もない明治2年に、時の政府は東西両京(東京と京都)を結ぶ幹線鉄道敷設を決定した。当時は中山道と東海道のどちらかに沿って敷設する計画であった。ちなみに、明治5年、日本で初めて新橋と横浜間に鉄道が敷かれた。

この地方でも、明治17年に大垣～加納の工事が開始され、明治19年には熱田～清州～一宮～木曽川の鉄道敷設が完成した。明治19年末には、この東西両京を結ぶ幹線鉄道を当初の中山道コースから東海道コースに変更する決定がなされた。こうして木曽川停車場(駅のこと)は、東海道線の駅となった。

木曽川～大垣間はまだ木曽川に鉄橋が完成しておらず、お客を一旦木曽川駅で降ろして約21キロ先の大垣駅まで人力車で搬送(約2時間)。したがって、名古屋～神戸間は13時間を要した。明治20年には木曽川鉄橋が完成している。当時は1日に上り2本、下り2本の運転だった。
(「木曽川町史」より)